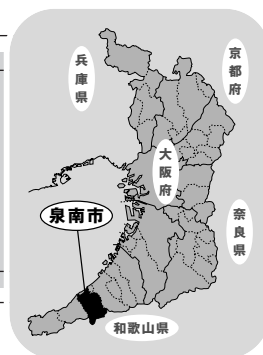


わたしのまちのPR

泉南市編



泉南市は、大阪府の南部に位置し、市域の北西は大阪湾、南東は和泉山脈を境に和歌山県と接しており、海と山に囲まれた美しい自然と歴史が融合するまちです。関西国際空港の南部約3分の1も同市の市域となっています。綿花栽培が盛んで和泉木綿の産地として知られており、同市を走るJR阪和線の海側には歴史的古道熊野街道が通っています。市街地は北部の平坦地域に展開し、JR阪和線の和泉砂川駅・南海電鉄南海線の樽井両駅前が中心商業地になっており、男里川の河口には府内唯一の天然干潟が残っています。この泉南市の魅力や特色について、政策推進課にお話をお伺いしてきました。

本日はどうぞよろしくお願ひします。

まずは、泉南市の歴史について教えていただけますか。

よろしくお願ひします。

本市は、温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれ、古くから人々の営みが行われていたと考えられています。本市を代表する遺跡で、古くより知られる男里遺跡^{おのさといせき}では、弥生時代において泉州屈指の規模の集落が展開していたことが判明しています。また、7世紀中頃には、畿内の最南西部に位置する古代寺院の海会寺^{かいえじ}が建立されるなど、文化や人々の交流が盛んな地域であったことがうかがえます。平安時代後期以降は、熊野大社への参詣が盛んとなり紀伊国へと通じる道は熊野街道と呼ばれ、街道の所々に鎮座する王子跡を拝みつつ熊野の地を目指し、多くの人々で賑わっていたとされています。

江戸時代には、参勤交代が盛んに行われていた頃、

熊野街道



大名、貴人が利用した街道沿いの旅宿を本陣と称し、現在もその面影が残る街並みを見ることができます。

その頃より和泉木綿の産地の一つとして、また紋羽織の生産でも有名になりました。明治時代には軍服用材料として紋羽織の需要が増大し、隆盛をきわめました。その後、大正・昭和の時代には紡績工場が相次いで数多く創設されるなど、紡績業は地場産業として地域の発展を支えてきました。

平成6年には、大阪湾の本市沖合に関西国際空港が開港し、同時に道路網や公共下水道などの空港関連地域整備が進み、都市基盤の整備が大きく前進することになりました。

紡績業を中心に発展してきたのですね。

次に、市の名所などを教えていただけますか。

本市は海や山などの自然に恵まれており、数多くの名所が存在しています。その内のいくつかを紹介させていただきます。

まず最初は金熊寺^{きんゆうじ}です。本市の山間部、東信達地区にある金熊寺は梅の名所として古くから知られており、泉南の春は金熊寺の梅林から梅の香りとともにやってきます。今も春の訪れとともに甘酸っぱい薫りを運んでくれます。近くには、信達神社があり、

金熊寺梅林とともに大阪みどりの百選にも選ばれました。

次にご紹介するのは、本市北西部の大阪湾沿いのサザンビーチ、マーブルビーチです。関西国際空港の対岸に臨むサザンビーチは、離発着する飛行機を眺めながら遊泳を楽しめる日本でも珍しいビーチで、白く美しい砂浜が海水浴客を迎えてくれます。毎年多くの家族連れやカップルで賑わい、暑い夏を盛り上げます。平成16年には、隣地に大規模複合型ショッピングセンターがオープンし、海水浴とともに、食事やショッピングも楽しむことができます。

また、サザンビーチの隣には白い大理石の玉石を敷き詰めた美しいマーブルビーチがあり、そこからサザンビーチにかけて沈む夕陽は、季節、時間帯と日々姿を変える、造られたものにはない自然の美しさが、我々の心を癒してくれます。週末には多くのカップル・家族連れが散策に訪れ、その美しい夕陽を楽しんでいます。マーブルビーチは、平成18年に大阪府ではじめて「恋人の聖地」に認定されています。サザンビーチで海水浴、マーブルビーチで美しい夕陽と様々な楽しみ方ができます。

金熊寺の梅林



マーブルビーチの夕焼け



山の風景、海の風景など様々な名所がありますね。次に特産品について教えていただけますか。

本市の特産品は、水ナス、サトイモ、ペットボトルから再生された繊維を使用した軍手などです。

中でも、水ナスは、本市のみならず泉州各地で江戸時代の初期から栽培されています。皮が非常に柔らかく水分を多くふくんだナスで、農作業の合間に手で絞り、ナスからでる水分で喉の渴きを潤したといわれていることから「水ナス」と呼ばれるようになったそうです。鮮やかな紫色の皮の艶はすばらしいのですが、その反面傷がつきやすく輸送が困難なため泉州地域中心の特産物でした。しかし、近年、雑誌等でも紹介される機会も増え、各地で需要が伸びてきています。

水ナスの古漬けを一晩水で塩出しし、新鮮な海老じゃこと一緒に出し汁、醤油、みりん、砂糖等で味付けし煮込んだじゃこごうこは、泉州地域では家々の味がある郷土料理です。

農産物を中心に特産物が豊富ですね。泉南市は水産物も有名だとお伺いしましたが。

本市の水産業は、大阪都市圏への水産物供給拠点としての泉州地域漁業の一翼を担い、また、市民への良質な生鮮魚介類を供給する役割を持っています。漁港には、アナゴを中心に、タコ、イワシ、カレイ、ヒラメ等、100種類もの魚介類が年間300トン近くも水揚げされています。特にアナゴの水揚げは全国でも有数で、大阪湾の魚として広く知られています。その一方で、関西国際空港とりんくうタウンの整備による漁場の減少に対応するため、これまでの獲る

日曜朝市



漁業から育てる漁業（都市型漁業）への転換など新しい方向への展開を模索しています。また、最近では、体験地引き網や日曜朝市なども行なわれており、観光漁業へも力を入れています。

時代の流れに適応しているのですね。
これらの豊富な特産品について広くPR等されているのですか。

本市では、繊維産業の衰退や、スーパーなどの大型店の進出、デフレ時代のモノ・サービスの低価格化、消費者ニーズの変化などが大きく影響し、地元商店は衰退の一途をたどってきました。

このような中、地元産業の活性化を図るため、「泉南ブランド」づくりに向け、商工会など各主体と連携・協力のもと、他店にない優れた商品、サービスを発掘し、自店の「逸品」を共同PRする「一店逸品事業」を実施しました。これにより、商業者の意識改革や、消費者サービスの向上につながりました。

また、市民が大切にしていた物や場所、習慣などを登録して公開する「せんなんのたからもの」という取組も実施しています。これは、たからものを発見し活用することで、市民と行政が文化財保護の必要性を共有することを目的としています。市民の方々には地域の活性化や地域の誇りを市民相互で共有できるなどの効果が、また、行政にとっては市内文化財に係る新たな情報を把握できるなどの効果が見込まれます。

せんなん自慢の逸品めぐり



積極的なPR活動が行われているのですね。話は変わりますが、泉南市には個人宅の一本の藤の木が多くの観光客を呼んでいるとお聞きしましたが。

おっしゃるとおりで、本市信達地区の梶本邸にある藤の木を囲んでふじまつりというイベントが行わ

れています。この藤は、昭和62年に梶本氏が花展用に購入し自宅の庭に植えたもので、翌年からどんどん成長し、平成5年には門かづきにまで成長し綺麗な花をつけました。その花が「美しい、いい香りがする」と評判になり、地域の方々からの要望もあって平成7年から無料で一般開放をし、地域の幼稚園児や身障者の団体を集めて餅つきを始めました。

ふじまつりでは、梶本氏が自ら作った木のイスなどを置いた屋上や通路（藤棚の下）で記念撮影が出来るようになっていました。その通路を通った向こうには美しい蓮華畑があり、梶本氏の奥様や地域のボランティアの皆さんが作った草餅を来訪者の方々に無料で配っています。また、口コミで近隣の市町村からもボランティアの方々が訪れ、オカリナやフルートなど様々なミニコンサートも開かれます。

ふじまつりが終わった数日後、翌年のために花房の刈り取りを行います。希望者には刈り取った花房を持ち帰ってもらいます。

平成7年当時は300人だった来訪者も今では3万人近くまで増加し、本市の春の風物詩となっています。

ふじまつり



個人が植えた藤の木が3万人の来訪者を呼ぶほどになるとは驚きですね。こういった市民活動は活発に行われているのですか。

そうですね。本市には市内の各種団体が加入している泉南市ABC委員会という民間活動団体があり、本市の地域活動に大変協力いただいております。

泉南市ABC委員会は、昭和63年5月に結成され、以来活動を続けています。市民による『花と緑につつまれた平和で文化の薫り高い美しいまちづくり

(Amenity and Beautiful Community Plan)』をめぐっています。活動は、クリーン事業部・花いっぱい事業部・国際交流事業部・文化推進事業部の4事業部に各種団体が所属し、事業部ごとに事業を企画し、実践しています。また、毎年4月29日にはABCまつりを開催し、活動報告や様々なイベントを実施して盛り上がります。

同委員会の中には、大阪府の地域づくり団体協議会にも加入しているSENNANまちづくり市民会議さんもいらっしゃいます。同会議は、今年で10周年を迎え、更なる飛躍が期待されています。

また、個々の知名度はそれほど高くありませんが、本市には観光名所が市内各地に点在しています。この名所をPRしようと、泉南市案内人の会が、各名所の見所を地域ごとにまとめた「泉南観光スポット」を作成しており、現在登録スポット数は約100件になっています。

ありがとうございます。次に、泉南市が力を入れている取組を教えてくださいませんか。

本市では、今春、りんくうタウン内に「泉南市総合交流拠点施設」の開設を予定しております。この施設は、地域資源を活用した産業振興や、市民交流の拠点となる施設で、今後、商工業をはじめとした市内産品を広く市内外にPRし、産業の振興及び地域活性化を図っていきたくと思います。

また、泉南市だけではなく、南泉州のショーウィンドウ的存在となるような文化・観光の振興や国際交流の拠点となることを目指し、商工会や泉南市ABC委員会が市内の様々な場所で行っている市民活動やイベント等をこの施設で開催することにより、

拠点施設



観光客の増加を促していきたいと考えています。

ちなみに、先程紹介したABCまつりは、今年は同施設で行われる予定です。

また、本市では、今後発生が予想される「東南海・南海地震」をはじめ、津波や土砂災害などの大規模災害から市民の生命・財産を守るため、MCAデジタル無線システムと低軌道衛星通信を組み合わせた同報系通信システム「泉南市防災用広報システム」の整備を平成18年度より順次進めております。このシステムは、阪神・淡路大震災、新潟県中越沖地震の際にも、混信・輻輳がなく、救援復旧に貢献し、災害時の信頼性が高いことが実証されています。また、防災だけでなく、平常時には市から発信する行政情報を迅速に提供することができ、地域コミュニティ活動の活性化を促進することも可能です。

これらの取組については、市の重要事業に指定し、頑張る地方応援プログラムにも位置付け、取り組んでいます。

それでは、最後にこれからのまちづくりについて教えてくださいませんか。

本市では、先程お話しした泉南市総合交流拠点施設のオープンは今春に控えています。この施設で、地元特産品を積極的にPRすることにより、一店逸品事業などと併せ、更なる地域商店の活性化につなげていきたくと考えています。

また、本市の一部である関西国際空港では、昨年8月に第2滑走路が供用開始したことにより、国内初の24時間運用可能な国際拠点空港になりました。山から海に至るまで広く自然に囲まれた環境と、この関西国際空港までのアクセスの利便性を活かし、内外に泉南市をPRするとともに、市民と行政の協働により、「水、緑、夢あふれる生活創造都市」の実現を目指し、臨空都市にふさわしい新しいまちづくりに取り組んでいきます。

今後、この交流拠点を中心に地域資源を活かしたまちづくりに一層躍進されることを期待しております。

本日は、お忙しい中、ありがとうございました。